

恋愛で傷つく姿「成長」

文人の 武藏野

1987年の秋、村上春樹の書き下ろし長編小説「ノルウェイの森」が全国の書店で半積みになりました。赤色の上巻と緑色の下巻が並び、クリスマス・カラーと呼ばれた2冊の鮮やかな装幀。本の帯には、「100パーセントの恋愛小説!!」と書かれていました。

異性愛中心の「恋愛至上主義」が喧伝されていた80年代

村上春樹 ②3



今年上半期のベストセラー

のことです。東京に生きる若者たちにとって、クリスマスは青春を賭けたイベントのようでした。ファンション化された現代思想や哲学（ニュー・アカ）が流行し、文学も芸術も学術もバブル経済の渦中にありました。

「ノルウェイの森」は、そうした時代を象徴する記録的なベストセラーになります。ただし、構成上は80年代に生きるワタナベトオルが、60年代末の体験を回想しながら書いている手記です。37歳のワタナベの語る18年前の「恋愛」は、都合のよいものであり、成長がみられないとの批判もありました。

一方、手元の英訳版（2000年）の裏表紙をみると、英語で「郷愁に満ちた壮大な成長物語」と紹介されています。また春樹は、「自作を語る」で「(一)」で本当に描きたかったのは恋愛の姿ではなく、むしろカジュアリティ一ズの姿」だとカタカナ英語で説明し、その訳例を「戦闘冒の減損」と示し、それらの姿に「成長」をみています。

でも心が通い合わない関係性の数々。成就しない恋愛とう「戦闘」によって傷ついた者たちの心身は損なわれ、あとに残された者は途方に暮れて「どう」にいるのかわからずになります。春樹はその姿を「成長」と呼びました。

「ノルウェイの森」が大ベストセラーになっていることを伝える本紙（1988年7月25日付朝刊）

一方、手元の英訳版（200年）の裏表紙をみると、英語で「郷愁に満ちた壮大な成長物語」と紹介されています。また春樹は、「自作を語る」で「ここで本当に描きたかったのは恋愛の姿ではなく、むしろカジュアリティーの姿」だとカタカナ英語で説明し、その訳例を「戦闘冒の減損」と示し、それらの姿に「成長」をみています。

「ノルウェイの森」には、成就しない恋愛が現実的に描かれています。成就しないのは、精神と肉体が一致しないからです。完全な相思相愛が確認され、かつ性行為が成立しないキズキと直子。相思相愛が不在なのに、性行為が成立してしまった直子とワタナベ。身体の相性が完璧

でも心が通い合わない関係性の数々。成就しない恋愛という「戦闘」によって傷ついた者たちの心身は損なわれ、あとに残された者は途方に暮れてどこにいるのかわからずになります。春樹はその姿を「成長」と呼びました。

犠牲者を出した末に生き延びてしまつたワタナベトオルの脳裏に真っ先に浮かぶのは、人間の姿ではなく、「どうでもいい場所」を表象する「武蔵野の風景」でした。
(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)